



## 荒廃した森を甦らせて30年目のアフンの森 天皇、皇后両陛下がアフンの森にご来訪いただきました

アフンの森は、日本の自然をこよなく愛する作家・C・Wニコル(一般財団法人C.W.ニコル・アフンの森財団 理事長)が、日本の森の荒廃を憂い1986年から、長野県信濃町の荒れた里山を少しずつ買い取り、藪払いや間伐などを行い、地域本来の森の生態系を取り戻すことを目的としてスタートしました。

森の再生活動を始めて今年で30年目を迎えたアフンの森では、長野県内で絶滅の恐れのある種のうち58種が戻り、命あふれる森となりました。

6月6日、全国植樹祭のために長野県をご訪問されていた両陛下は、長野県信濃町にある「アフンの森」にご来訪くださり、新緑深まる森を散策されました。

平成28年6月6日(月) 行幸啓



写真提供: 長野県

午前11時15分 アフンセンターへ御到着

同センター内でご休憩ののち、アフンの森の成り立ちなどの写真パネルをご覧になられ、ニコルの案内によりアフンの森を散策されました。



写真提供：長野県

ニコルをはじめ当財団スタッフは、両陛下をお迎えして緊張と感激で胸が張り裂けそうな思いでした。

C.W.ニコルは、英国から来日し、日本国籍を取得して21年。日本を愛し、森の再生のチカラを信じて30年活動してきたアフアの森を天皇皇后両陛下にご覧いただけましたことは、ニコルの人生の中で最も幸せで光栄なこととなりました。



写真提供：長野県

この機会を励みに、森の再生活動を通じて子ども達の笑顔と日本の未来のために一層の努力を続けて参ります。

初夏を思わせる晴天の中、木漏れ日が注ぐ森へ入ると、小鳥たちのささやきに耳を傾けながら、両陛下より「清々しく気持ちがいいですね」「素晴らしい森です」とお言葉をいただきました。

ニコルから、間伐により林床に光を入れる森づくりの大切さや、利用できない間伐材はチップにして道や子ども達が集まる場所に敷き、人が入っても森の地面を守る役割を果たしているとの説明をしました。

皇后陛下より、東日本大震災による東松島や福島の子どもの活動に触れてくださり「子ども達にとって大切な活動を本当にありがとうございます」とのお言葉も頂戴いたしました。

また、森の中で間伐した材を馬で引き出す「馬搬」の様子もご覧いただき、両陛下とも大変ご興味を持っていただきました。馬の元へお近づきになり顔や首に触られました。

両陛下とも樹々や草花1つ1つにご関心を寄せていただき、命あふれる森をご堪能いただきました。



## 両陛下ご来訪に寄せて

午後4時になりました。ここは、アフアの森に建つアフアセンターです。センターの中はとても静かですが、森の様子に耳を澄ますと、小鳥のさえずりとカエルの鳴き声が奏でるにぎやかなコーラスに時折セミが割って入るのが聴こえてきます。

天皇皇后両陛下のご来訪に合わせて準備と警備に携わった宮内庁の職員の皆さん、メディア関係者が森を離れると、上空を旋回していたヘリコプターも飛び去って行きました。

本日は両陛下の行幸啓を賜り、大変光栄に存じます。わたしたちの森は、あたたかな日差しに包まれて素晴らしい天気恵まれました。きらめく森の深い緑の間には、涼しく心地よい風が渡ってゆきます。森に暮らす生きものたちも、大切なお客様をおもてなしするかのように歌い、花々が咲き乱れています。わたしは、両陛下に森をご案内する大役をいただきました。森の維持管理を担当する石井敦司が、ご質問にお答えする際の補佐役として一緒に歩いてくれました。

陛下は花や木々、そして森や池、小川の生態系についてたくさんのご質問をなさっておられました。ウッドチップを敷いた小道のこと、東松島や福島の子供たちを森に招いていることなどについてもお話しいたしました。そして木の手入れのこと、林床にダメージを与えないようにすることの大切さなどにも話題が及びます。

そして散策の最後、わたしたちの新しい仲間である馬の雪丸が、馬方の八丸健さん、下坂龍太さんとともに木材の馬搬を行いながら姿を現します...完璧なタイミングでした！

陛下が雪丸にお近づきになりたいとおっしゃって、皇后陛下とともに森の中へと進まれました。そして陛下は雪丸に触れ、白いたてがみを撫でてくださったのです。

両陛下とアフアセンターの中でお茶をいただきながら、陛下が馬と過ごされたご自身の経験について、また私のふるさであるウェールズについてもお話を交わしました。

「アフア」という私たちの森の名前がウェールズにあるアフア・アルゴード森林公園にちなんで名づけられたこと、二つの森は姉妹森として提携していることを、皇后陛下はご存知でいらっしゃいました。優しく微笑まれながら「ウェールズからニコルさんを追いかけて日本までやって来たケルトの妖精たちが、黒姫のアフアの森を気に入って住み着いているのかもしれないね。」と、おっしゃってくださいました。

財団のスタッフとわたしにとって、今日は魔法のような一日でした。

みなさまも、アフアの森へ妖精たちに会いにいらしてください。

目に見えない力で、ふしぎないたずらをみなさんに仕掛けてくれることでしょう。

2016年(平成28年)6月6日  
一般財団法人C.W.ニコル・アフアの森財団  
理事長 C.W.ニコル



写真提供:長野県

## 団体概要



一般財団法人  
C.W.ニコル・アフンの森財団

### 森を守る。子ども達の笑顔と日本の未来のために

作家C.W.ニコルが、1986年より日本の森の荒廃を憂い、放置された里山を自ら買い取り、生命力豊かな本来の日本の森を甦らせることを目的に森づくりを始めました。その森をアフンの森と名付け、藪やツタを刈り間伐などの手入れをすることによって、多くの命の環が戻ってきました。

2002年、森を永遠に残すために財団法人C.W.ニコル・アフンの森財団を設立。設立当初約10haだった森が、多くの方々のご協力により、今では約34.3haとなり、手入れを始めて30年目の森には、地域的に絶滅が危惧される動植物が58種類以上戻ってきました。

14年前から、生命力溢れる豊かな森は人の心も豊かにすることを信じ、自然と触れ合う機会の少ない体に障害のある子ども達や、心に傷を負った児童養護施設の子ども達を森に招く「5センス（ファイブセンス）・心の森プロジェクト」を実践し、今までに600以上の子ども達の心の成長を見守ってきました。

東日本大震災以降、宮城県東松島市の子ども達をアフンの森へ招待したことをきっかけに、同市と「復興支援に関する包括協定」結び、津波により被害のあった小学校の再建にあたり、公立初の『森の学校』にすべく、東松島の森の再生と子どもたちの心のケアの活動を続けています。

また、2015年度からホースプロジェクトを立ち上げ、間伐した材を馬で運ぶ“馬搬”など日本の伝統的な技術を復活させ、里山再生の要となる働く馬の活用により地域の活性化へ繋げたいと考えています。

環境調査で生物の声を聞きながら行う「森の再生」、豊かになった森での「心の再生」。そして「地域の創生」へ。「アフンの森」を中心とした森林保全活動を通じて、地域の自然共生型社会形成に寄与することを目的に活動を展開しています。

一般財団法人C.W.ニコル・アフンの森財団 [www.afan.or.jp](http://www.afan.or.jp)  
[info@afan.or.jp](mailto:info@afan.or.jp)

○東京オフィス

〒155-0032 東京都世田谷区代沢2-20-5 T.D.ビルA号

TEL:03-6453-4192 FAX:03-6453-4193

○アフンセンター

〒389-1316 長野県上水内郡信濃町大井2742-2041

Tel 026-254-8081 Fax 026-254-8082

本件に関するお問い合わせ 担当 野口理佐子(東京オフィス)





## 一般財団法人C.W.ニコル・アフアの森財団 主な実績

- 2002年 当財団法人設立
- 2002年 英国ウェールズの「アフアルゴード森林公園」と姉妹森締結
- 2003年 アフアの森の敷地の分断化が解消し、面積が約9.7haとなる。
- 2004年 「アフア“心の森”プロジェクト」スタート  
(概要) 児童養護施設で暮らす(児童虐待を経験した)小学生や、盲学校など障害のある小中学生を対象に、アフアの森で野外活動を楽しむことで、豊かな心を育むことを意図した取り組み。
- 2005年 C・Wニコルが英国エリザベス女王陛下より「名誉大英勲章」を叙勲
- 2008年 英国チャールズ皇太子がアフアの森をご視察
- 2008年 フクロウが天然木の樹洞から初めて巣立つ(2002年以降13羽の雛が巣立つ)
- 2009年 アフアの森の面積が約29.8ha(設立当初の約3倍)となる
- 2010年 麻布大学と学術交流協定を締結  
(概要) アフアの森での森の再生をより学術的に評価すると同時に、アフアの森を教育の場として活かすことを意図した協定。
- 2010年 C・Wニコルが国際森林年国内委員会委員を拝命
- 2010年 日本ユネスコ協会連盟「プロジェクト未来遺産」に登録
- 2011年 C・Wニコルが天皇皇后両陛下に「アフアの森の森林再生事業」を御進講
- 2011年 「東日本大震災・震災復興プロジェクト」をスタート  
(概要) 被災地の親子をアフアの森に招く事業。東松島市の森の学校・復興の森づくりを支援。
- 2011年 国際森林年第3回国内委員会がアフアの森で開催される
- 2011年 C・Wニコルが長野県森林大使に任命
- 2012年 隣接する国有林を「森林・林業再生モデル林」として、林野庁北信森林管理署と「社会貢献の森」の協定を締結
- 2012年 高円宮妃殿下が4回目のご来訪
- 2012年 7月6日宮城県東松島市と復興支援に関する協定を締結
- 2015年 C・Wニコルが長野県第2回森林おもてなし大賞受賞
- 2016年 C・Wニコルがみどりの文化賞 受賞
- 2016年 天皇皇后両陛下が長野県信濃町「アフアの森」行幸啓